

6-10					
主題	口腔ケアの質の向上への取り組み				
副題	口腔ケアの物品の拡充でマンパワー不足を補い誤嚥性肺炎の				
キーワード 1	口腔ケア	キーワード 2	ケア物品の拡充	研究(実践)期間	7ヶ月

法人名	社福)一誠会	事業所名	特別養護老人ホーム偕楽園ホーム
発表者(職種)	工藤天平(介護職)、服部忠勝(介護職)		
共同研究(実践)者	築地和哉(介護職)、ガルドビアンカ(介護職)、他		

電 話	042-691-2830	FAX	042-691-8288
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	八王子市にある昭和 55 年開設の従来型 100 床の特養です。平成 23 年 4 月、隣地にデイサービス、グループホームを開設、平成 26 年 11 月には国際品質規格である ISO9001 の認証を取得しさらなる介護サービスの質の向上に努めています。平成 30 年 9 月に第二偕楽園ホーム、看護小規模多機能居宅介護事業がオープン。令和 6 年 4 月にはデイサービス事業がオープンしている。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

毎週歯科が訪問し口腔ケアを行い、A～D の 4 段階評価を行っている。A はかなり綺麗な口腔環境、B 評価はある程度綺麗な口腔環境、C 評価は少し汚れている口腔環境、D は汚染している口腔環境となっている。AB 評価は全体の 20%程度となっており 80%は CD 評価となっている。CD 評価の内約半数は D 評価となっており、口腔ケアの質は課題として挙げられていた。しかし、ここ数年は具体的な対策が練られずに経過していた。劣悪な口腔環境は誤嚥性肺炎のリスクも高いとされている。もちろん利用者の機能面が誤嚥性肺炎のリスクの大半を占めるが、実際に発熱し誤嚥性肺炎の診断を受け入院に至るケースもあった。

令和 5 年度は日勤帯 5 名体制で配置されていたが、令和 6 年度は 2 名から 4 名で配置されており平均 1 名以上少ない状況下で介護を行っている状態であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

まず前提として毎週訪問歯科が評価してくれているので、その評価が上がれば誤嚥性肺炎のリスクを減らせるのではないかと。D 評価を 0 にする事が出来れば、誤嚥性肺炎のリスクも 0 に近づくのではないかと。

- 個別の口腔ケアの質の向上の為、個々にあった口腔ケア物品の拡充を行う事で、より口腔内の清潔を保てるのではないかと。拡充したうえで、歯科衛生士に指導してもらう事で、口腔ケアの質の向上を図れるのではないかと。
- 口腔ケア後の嗽の際にうがい薬を使用する事で、口腔内の菌の増殖を押さえ肺炎のリスクを軽減できるのではないかと。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 今まで総入れ歯の利用者には口腔用清拭、吸引チューブ装着可能ブラシ。部分入れ歯、自歯の方は統一

した歯ブラシを使用していた。そこに 360℃扁平ブラシ、ヘッドの小さい歯ブラシ、ヘッドの大きい歯ブラシを選択肢に加えることで、今まで磨きにくかった利用者の口腔内に少しでも適性の高い歯ブラシを合わせられるようにする。また歯科衛生士に口腔ケアの指導を受けて口腔ケアの実技を学ぶ。

- ・寝る前の口腔ケアの際にうがい薬を使用する事で、就寝中の口腔内の菌の増殖を押さえ、清潔な口腔内の環境を維持できる。参考文献参照 P6。

以上の事を行う事で、訪問歯科の評価を向上させ D 評価 O、誤嚥性肺炎 O を目標に取り組んで行く。

《4. 取り組みの結果》

- ・歯科の評価を基に、個々の不足している口腔ケアに適正なブラシを使用し、食物残渣の圧入や開口不良のご利用者の口腔ケアの指導を受けた結果、R5 年度 4 月～10 月までの評価者総数は 1010 名で D 評価を受けた数は 342 名約 33.8%となっている。口腔ケア物品の拡充を行い、口腔ケアの質の向上に取り組み始めてからの R6 年度 4 月～10 月までの評価者総数は 831 名で D 評価を受けた数は 214 名約 25.8%となっている。
- ・うがい薬の導入によって、実際に数値として改善や向上したかという提示できるものはなく、口腔評価に歯茎の腫れが軽減したなどのコメントは見られるものの R5 年度は誤嚥性肺炎での入院は 0 だったが、R6 年度は 1 件誤嚥性肺炎での入院が発生してしまった。ただ職員から利用者の口臭が軽減したと感覚の話ではあるが出ている。

《5. 考察、まとめ》

R6 年度は R5 年度に比べて職員の配置が少なく、実際に口腔ケアに費やせる時間は減少していると言える状況であった。しかし口腔ケアの物品や口腔ケア方法の適正化を図る事で評価を向上する事が出来たと考える。目標であった D 評価 O には程遠い状況でもあり、更なる物品の拡充や口腔ケアを手厚く行える業務改善などより多くの課題も見つける事が出来た。またうがい薬の導入で目に見える成果は出ていない一方で、口臭が軽減した等の意見が出て来ていることから、ご利用者の口腔内の不快感などの軽減には繋がっているのではないかと考える。もちろんこのうがい薬にてさっぱりする等の評価を言われる事もあったが、要介護者の全員が訴えられる訳では無い。体感ではあるが、改善しているという実感があるという事は、ご利用者の QOL の向上にもつながっていると考え、継続していく事が大切だと考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

知らないと怖い！口の中の汚れ 口腔ケアガイド 医療法人社団 高輪会

《8. 提案と発信》

今回の私たちの研究内容は、決してハイレベルなものでは無いかもしれない。しかし取り組んだ事の中には、同じ境遇で悩んでいる施設のお役に立てる情報や工夫があるかも知れない。現在深刻な人手不足に悩まされている施設は多いと聞いている。我が法人も深刻な人手不足に陥っている。しかしご利用者の生活は担保されなければならない。このような素晴らしい研究発表の場は、情報や工夫やアイデアの共有の場所だと思ってる。よりよい情報をより多くの人と共有する事が出来れば、介護って素晴らしいと思えることが出来ると思う。発表者としてここに居るが、情報収集の為に参加させてもらっている。